

御嶽山の火山活動解説資料

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター

< 噴火警戒レベル 3（入山規制）が継続 >

御嶽山では、引き続き火山活動は高まった状態で推移しています。

9 月 27 日の噴火前から連続して発生している火山性微動は、10 月 7 日に入ってから、検知できない程度の大きさになっています。

【防災上の警戒事項等】

御嶽山では、火口から 4 km 程度の範囲では大きな噴石の飛散や火砕流に警戒してください。

風下側では火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流の可能性がありますので注意してください。

活動状況

・ 噴煙の状況（表 1）

遠望カメラによる観測では、昨日（10 日）21 時過ぎから、噴煙は白色となっており、噴煙に含まれる火山灰の量が少なくなったためと推定されます。15 時 20 分現在、噴煙の高さは火口縁上 300m で南に流れています。

・ 火山ガス（二酸化硫黄）の状況（図 1、表 1）

昨日（10 日）山麓で実施した火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は、1 日あたりおおよそ 100～200 トン（速報値）で、これまでと大きな変化はありませんでした。

・ 地震・微動の発生状況（表 1、図 2）

噴火発生の 11 分前の 9 月 27 日 11 時 41 分頃から連続して発生していた火山性微動は、振幅の増減を繰り返して継続していましたが、10 月 7 日に入ってから、検知できない程度の大きさになっています。

火山性微動の振幅の増減は、山頂付近浅部での火山活動の消長を表しているものと考えられますが、火山性微動の振幅が小さくなったことが必ずしも火山活動の低下を表すものではありません。また、微動の振幅は、火山活動以外の要因により増大することもあります。

・ 地殻変動の状況

地殻変動観測データに特段の変化はみられません。

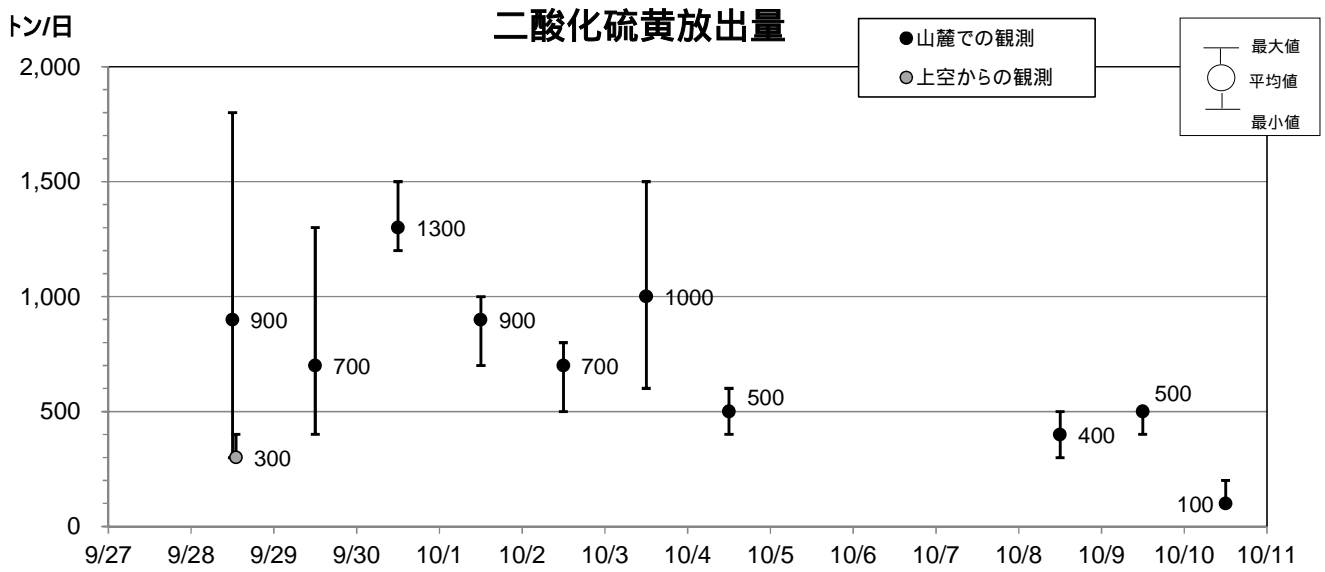


図1 御嶽山 火山ガス（二酸化硫黄）観測結果（9月28日～10月10日）

- ・昨日（10日）に山麓で実施した火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は、1日あたりおおよそ100～200トン（速報値）で、これまでと大きな変化はありませんでした。

表 1 御嶽山 2014 年 9 月及び 10 月（10 日まで）の火山活動状況

9月	噴火回数	火山性地震回数	火山性微動回数	山頂火口の噴煙の状況 ¹⁾		備考
				日最高(m)	噴煙量	
1日	0	4	0	×	×	
2日	0	0	0	-	-	
3日	0	0	0	×	×	
4日	0	0	0	×	×	
5日	0	0	0	×	×	
6日	0	1	0	-	-	
7日	0	2	0	×	×	
8日	0	5	0	-	-	
9日	0	10	0	-	-	
10日	0	52	0	-	-	
11日	0	85	0	×	×	
12日	0	10	0	-	-	
13日	0	7	0	-	-	
14日	0	8	0	-	-	
15日	0	27	0	-	-	
16日	0	18	0	×	×	
17日	0	10	0	-	-	
18日	0	24	0	-	-	
19日	0	3	0	-	-	
20日	0	10	0	-	-	
21日	0	17	0	-	-	
22日	0	3	0	×	×	
23日	0	10	0	-	-	
24日	0	9	0	-	-	
25日	0	8	0	×	×	
26日	0	6	0	×	×	
27日	1	483	1	×	×	11時52分頃噴火発生。 南西側に火砕流流下、北東山麓を中心に降灰。
28日	継続	131	継続	800	3	噴火継続。二酸化硫黄放出量300～1800トン/日。
29日	継続	53	継続	400	2	噴火継続。二酸化硫黄放出量400～1300トン/日。
30日	継続	56	継続	400	2	噴火継続。二酸化硫黄放出量1200～1500トン/日。
合計	1	1052	1			

10月	噴火回数	火山性地震回数	火山性微動回数	山頂火口の噴煙の状況 ¹⁾		備考
				日最高(m)	噴煙量	
1日	継続	35	継続	400	2	噴火継続。二酸化硫黄放出量700～1000トン/日。
2日	継続	16	継続	×	×	噴火継続。二酸化硫黄放出量500～800トン/日。
3日	継続	27	継続	×	×	噴火継続。二酸化硫黄放出量600～1500トン/日。
4日	継続	25	継続	300	1	噴火継続。二酸化硫黄放出量400～600トン/日。
5日	継続	18	継続	×	×	噴火継続。
6日	継続	23	継続	×	×	噴火継続。
7日	継続	13	*	500	2	噴火継続。
8日	継続	15	*	300	1	噴火継続。二酸化硫黄放出量300～500トン/日。
9日	継続	6	*	×	×	噴火継続。二酸化硫黄放出量400～500トン/日。
10日	継続	10	*	300	1	噴火継続。二酸化硫黄放出量100～200トン/日。
合計	1	188	1			

* 検知できない程度の大きさ

1) 噴煙の高さ及び噴煙量は日最大値（噴火時以外は定時観測（09時・15時）の値）です。

噴煙量は以下の7階級で観測しています。

1：極めて少量 2：少量 3：中量 4：やや多量 5：多量 6：極めて多量

7：噴煙量6以上の大噴火で、噴煙が山体を覆う位に多く噴煙の高さは成層圏まで達したと思われるもの

-：噴煙なし ×：不明

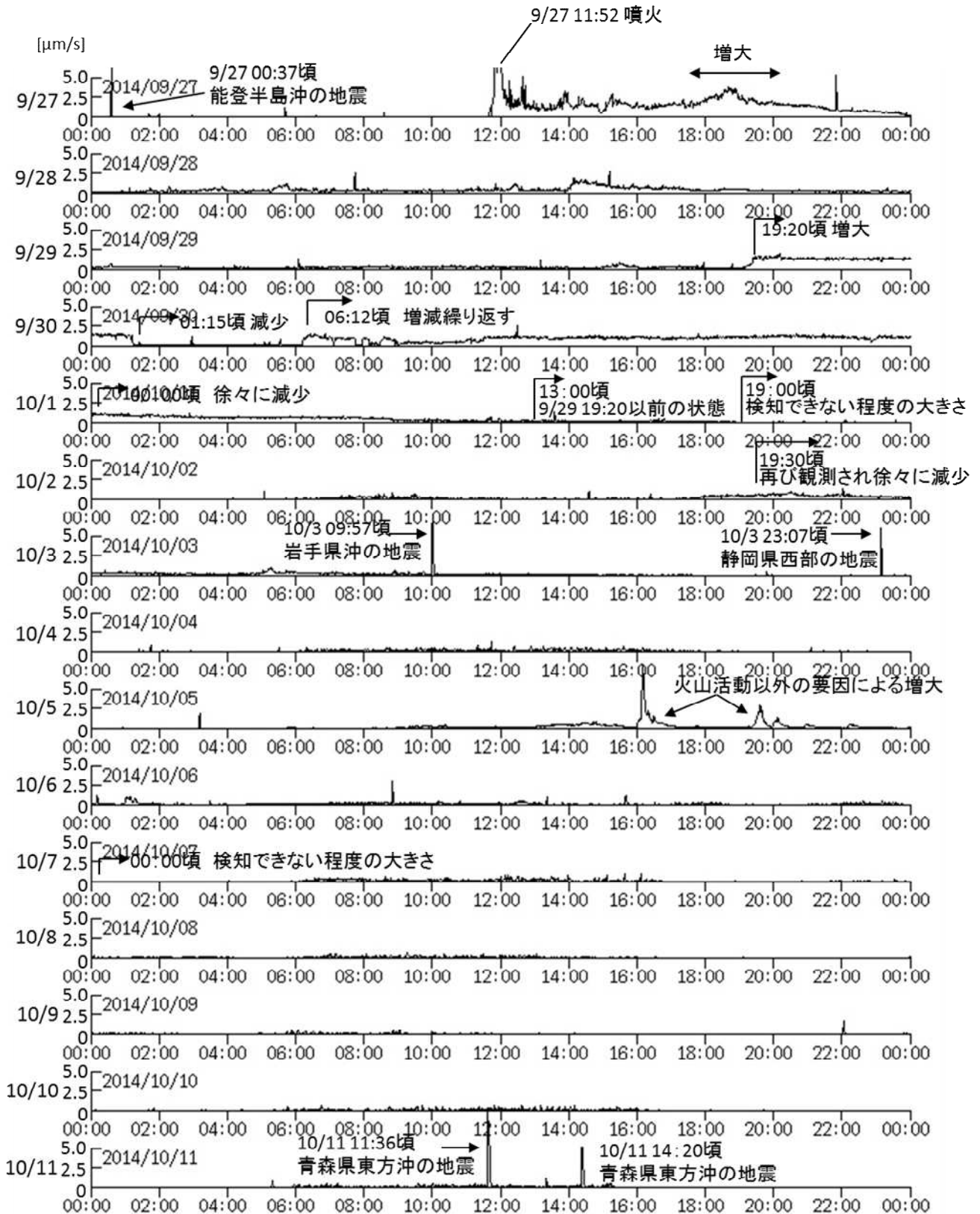
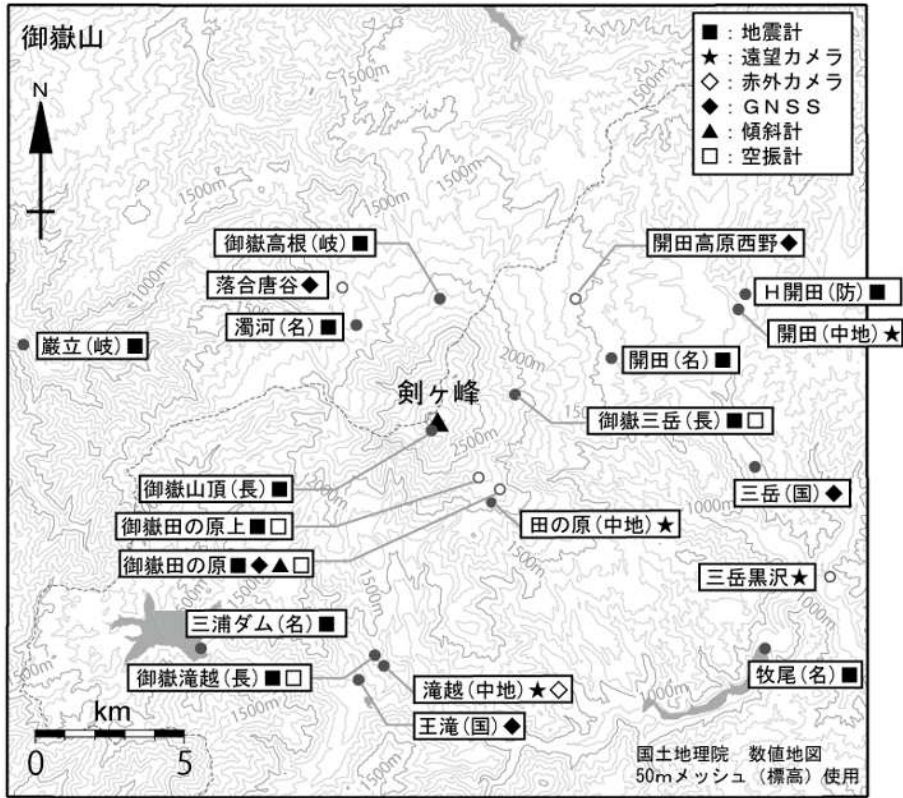


図2 御嶽山 田の原上観測点(剣ヶ峰南東約2km)の上下動地震波形の1分間振幅平均値の推移
(2014年9月27日00時~10月11日15時20分)

・連続して発生している火山性微動は、増減を繰り返して継続していましたが、10月7日に入ってから、検知できない程度の大きさになっています。



小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国) : 国土地理院、(中地) : 中部地方整備局、(防) : 防災科学技術研究所、(名) : 名古屋大学、
 (長) : 長野県、(岐) : 岐阜県

図3 御嶽山 観測点配置図